

小学生の部



最優秀作 内閣総理大臣賞

千葉県我孫子市立我孫子第四小学校

三年 永野^{ながの}太鳳^{たお}

つながれわたしのありがとう

「運転手さんにちゃんとお礼を言おうね。せーの、ありがとう。ありがとうございました。」

道路をわたる時に止まってくれた車には、かならずふり返っておじぎをしてお礼を言うようにと、お母さんはまだ小さかったわたしに教えてくれました。ちゃんとお礼を言うと、両親がとてもほめてくれたので、わたしはそれがうれしくて出歩く時は車が止まってくれるとほりきってお礼を言っていました。

しかし、小学生になってから少したつと、わたしは止まってくれた車にお礼を言うことをしなくなっていました。他の小学生や大人たちには、同じようにしてい

る人はいなかったの、わたしだけがふり返っておじぎをしていることがだんだんと「はずかしいな」と感じるようになってきたからです。

「お母さん、わたしは止まってくれた車にお礼を言っていたけれど、周りの人たちはそんなことはしていないし、わたしだけがやっているのがさい近はなんだかはずかしいんだ。」

ある日、わたしは少しゆう気を出してそう言ってみましたが、がっかりするかな？おこられるかな？などと思いましたが、お母さんの言葉はわたしの予想とはちがっていました。

「車が止まって歩行者を待つことはルールだからお礼を言うひつようはないと思っている人はたしかにいますね。でも、ありがとうを言われていやな気持ちになったことはある？」

「ないよ。うれしくて、気持ちスツとする。」

「そうだよ。ありがとうにはすごい力があるんだよ。あなたの感じが運転手さんをうれしくさせて、次もまただれかのために止まってくれる。止まってくれた人もうれしくなる。そうやってありがとうの気持ちが名前も

知らないだけかにつながっていくんだよ。」

それを聞いた時、わたしのお礼に手をふってくれたり、え顔を返してくれた運転手さんたちがいたことを思い出しました。その後もまただけかのために止まってくれたり、らんぼうな運転をしないように気をつけようと思ってもらえたなら、わたしのおじぎとお礼が交通事故をふせぐことに役立つかもしれません。そう思うと急にムクムクとやる気がわき上がってきました。

それからわたしは前よりも、もっとはりきってお礼を伝えることにしました。そうすると、おどろいたことにわたしがお礼をしているのを見た小さな女の子がまねをして、車に「ありがとう。」とおじぎをしました。「わたしの行動があの子につながったんだ。」やる気のパワーをじゅう電してもらった気持ちになりとてもうれしくなりました。

みんなでありがどうの気持ちを伝え合えば交通事故のない安全な町をきずいていけると思います。今日も、明日も、その先も小さな「ありがとう。」をわたしからどんどん発しんしていきたいと思います。



優秀作

国務大臣・国家公安委員会委員長賞

千葉県千葉市立小倉小学校

うんてんちゅうのスマホ

一年

松隈まつくま

唯ゆい

わたしのおかあさんのおなかのなかにはいまあかちゃんがあります。おとこのこです。あかちゃんがうまれることをかぞくみんなでたのしみにしています。あかちゃんがうまれるときにはおかあさんはびょういんにおとまりするときいています。

でもあかちゃんがうまれるよていのひよりずっとまえに、おかあさんはびょういんにおとまりすることになりました。くるまをうんてんしているときに、うしろからぶつかってきたくるまがいて、じこにあってしまったからです。スマホをみながらうんてんしていたひとがぶつかってきたとききました。

おかあさんはおなかをくるまのハンドルにぶつけてしまつて、こしのほねにひびがはいつてしまいました。おなかのあかちゃんはこのあと、うまれてしまいそうになつたけれど、おなかにぎゅつとしがみついてくれたからぶじだったとおかあさんがおしえてくれました。

くるまはうしろがわがペチャンコになつてしまいました。おかあさんがじこのあとくるまをみて、こどもたちがのつていなくてほんとうによかつたとなんどもいつていました。

「なんでスマホをみながらうんてんしていたのかな。」
おとうさんやおとうとはなしました。どうしても、うんてんちゅうにスマホをさわらないといけなかつたのかな。なにかれんらくをいそいでいたのかな。おとなにはいろいろなりゆうがあるのかもしれないけれど、わたしはもうこんなじこはいやだなとおもいました。

「シートベルトつけたかな。しゅっぱつ、しんこう！
レッツゴー！」

いつもうんてんせきからおかあさんがいつてくれるあのことばです。おかあさんはじこのあと、きをつけてうんてんしていてもじこはおきてしまうことがあるから、

かならずシートベルトをきちんとしてようとはなしてくれませんでした。

わたしは、スマホをみながらうんてんすることでおきるじこがなくなつてほしいです。うんてんちゅうにはうんてんにしゅうちゅうして、スマホをみることをやめて、まわりをきをつけてもらいたいなどおもいます。

福井県福井市安居小学校

二年 横山 凌央

気もちのちがいがじこのもと

ぼくのおかあさんが、あさしごとに行くみちには、学校が二つあります。そこをおかあさんは、とく大きいスポーツとよんでいます。ときどき、こんなあぶないことがあった、あんなこわいことがあった、と話していて、ぼくに気をつけると言ってきます。

ぼくはいつもこう通ルールをまもつて学校に行つていきます。だから、どうして学校の近くだからといって、き

けんなんだろうと思いました。ぼくがまもっているルールは、あるいているときは、白線から出ない。車を通るみちに出るときは、一ど立ちどまる、の二つです。おかあさんにそれを言うと、

「みんながそれをしてくれると、うんてんしゅもあんなんだけど、みんながそうしてくれているわけじゃないからね。」
と、言いました。

「それに、うんてんしているときには、あるいている子が、つぎにどんなこうどうをとるか、よそうがつかないこともあるからね。」

とも言いました。

ある日、おかあさんがしごとに行くときに、じてんしゃの中学生がよこみちからきゅうにやってきて、車の前をおうだんしないでカーブして行きました。中学生は車の前をおうだんするつもりはないから、スピードをおとさずに近づいてきましたが、うんてんをしているおかあさんは、車の前にとび出して来ると思つてきゅうブレーキをかけてしんぞうがバクバクしたそうです。

これを聞いて、ぼくは中学生とおかあさんの気もちが

香川県観音寺市立観音寺小学校

三年 松本 まつもと 栞奈 かんな

安心してくらせるまちへ

ちがうことが、きけんになつて思ひました。だからぼくは、気もちのちがいをなくすと、じこがおこりにくくなると思ひました。

じてん車やあるいてる人は、つぎにそちちに行くよ、という気もちをうんでんしゅに知らせるために、一ど立ちどまつたりすることが大切で、うんでんしゅは、じてん車やあるいてる人がこちちに来るかもしれないと、ずっとよそうしてうんでんしゅすることが大切だと思ひました。

「だって、じてん車にウインカーはついていないしね。」と、ぼくが言つたら

「あ、本とうだ。あればいいのにね。」

と、おかあさんははつとして、おどろいていました。

ぼくはあるくとき、車が通るみちに出るときは一ど立ちどまつていたけれど、もつとうんでんしゅに、ぼくがつぎにとちちに行くかわかるように気もちをこめて、とまりたいなと思ひました。

私は、一年生の時に、交通じこにあいました。横だん歩道をわたつていた時に、相手のふちゆう意ではねられました。わたしは、けがをして、とてもいたかったです。そのきずあとは、まだのこつています。おい者さんからは、「このきずは、ずっときえませせん。」

と言われました。交通じこにあつてから、車を見ると、こわくなつてしまいます。学校も、一人で歩いて行くことができなくなりました。それから、毎日お母さんに送つてもらいながら、登校するようになりました。車を見ただけでも、泣いてしまう日もありました。遠足も、先生と手をつないで歩き、横だん歩道をわたる時は、きんちょうしました。

それから二年たつて、三年生になつてからは、車へのきょうふ心もだんだんと少なくなつています。しかし、今でも、マナーのわるい車を見ると交通じこのことを思

い出します。今日も、信号むしをする車を見ました。とてもあぶなくて、きけんだと思いました。登下校中、横だん歩道をわたっているのに、車がそのままつっこんで来ることあります。歩行者をゆう先せずに車を運転している人は、気をつけてほしいです。けいたい電話をそうさしながら運転している人もよく見かけます。交通ルールやマナーを守らないことで、大切な命がなくなっているのです。そして、私のように、命は助かって、そのきずや、心のいたみがきえずに苦しんでいる人もたくさんいるはずですよ。

交通ルールは、ぜったいに守らないといけません。車のこわさ、自転車のこわさをもつと考えてほしいです。香川県は、全国でも、交通じこが多い県だと聞きました。子どもも、はたらく人も、お年よりの人も、みんなが安心してくらせるまちをつくるためには「少しくらい大じょうぶ」「ばれなかつたら大じょうぶ」「いつもの道だから大じょうぶ」と思わず、ふちゆう意の原いんをなくしていくことが大切だと思います。

私は、歩行者としてちゆう意しています。道を歩く時は、車道に出ないように、なるべく右がわを真っ直ぐ歩

くようにしています。信号機が点めつしたら、横だん歩道をわたらずに、下がって止まるようにしています。交差点では、左右をよくかくにんしてから、手を高く上げてわたります。細い道で車が通る時は、立ち止まって通りすぎるのを待ちます。

これからも、「自分の命は、自分で守る」の言葉をむねに、気をつけて生活していきます。そして、「大切なだれかの命も、みんなを守る」ことができたら、交通じこは、なくなっていくと思います。心のふちゆう意をなくし、みんなが交通安全にちゆう意して、安心してくらせるまちになるように、わたしも呼びかけていきたいです。

わが家のルール

私は、夕焼けの空が一番好きです。日がしずみ、オレンジ色からだんだん暗くなる、この世界観に心をうばわれるからです。また、雨がふり出しそうな空も好きです。辺りはうす暗く、なんとなく雨のおいがしてきます。そんなひとときに、愛犬と散歩するのが楽しいです。愛犬も散歩が大好きで、うれしそうに私の顔を見上げます。「風が気持ちいいね、空がきれいだね。」そんなことを話しかけながら、歩いています。しかし、夕方は車がたくさん通り、道がせまい場所もあって、車が私のすぐ近くを通ってひやひやします。夕ぐれ時は、一日の中で歩行者が死ぼうする交通事故が多い、きけんな時間帯だそうです。また雨の日は、し界が悪くなり、道路がぬれたことで車がスリップし、事を起こしやすいそうです。いつ事こにあうかは、だれにもわかりません。しかし、交通ルールを正しく守ることで、事をふせぐことができます。

るのです。

私は、犬の散歩において、家族と話し合って決めた約束事があります。それは、次の四つのことです。一つ目は、必ず母といっしょに行くことです。夕方といっても、私だけで外出するのはあぶないので、母と散歩に行きます。二つ目は、ライトを持って行くことです。ライトがあれば、ドライバーがいち早く歩行者に気付くことができます。三つ目は、車が通る時は、犬の方を向いて横向きに立つて止まることです。横向きになることで、体の面積が小さくなり、車が通りやすくなります。またかべを作ることで、犬の飛び出しをふせぐことができます。四つ目は、万が一事故にあった場合、近くの大人に助けを求めることです。母が対応できればいいのですが、私しか動けない場合、自分で助けを求め、きちんとしようきょうを説明できなければなりません。事こにあつた場合、あせてしまい、正かくなじょうほうを伝えられなくなるかもしれません。私の家では、日ごろから順じよ立てて話をする訓練をしています。そうすることで、いざという時、要点をつかんで話すことができます。私は、ずっとこの四つの決まりを守っています。

車を運転するためには、自動車学校に通い試験に合格して、運転めんきよししょうを取とくしなければいけません。しかし私達歩行者は、歩くためのめんきよししょうを取とくするわけではありません。交通事こにあわないために、どうすればいいの自分で学び、実せんすることが大切です。私はこれからも、交通ルールを正しく守り、犬の散歩を楽しもうと思います。散歩をすることは、全身運動になって健康に良く、ストレス発散にもなります。また愛犬とのきずなも深まり、一石二鳥です。老犬ですが、愛犬が少しでも長生きできるように、夕焼け空の散歩を大切にして、歩いて行こうと思います。

愛媛県松山市立宮前小学校

五年

藤瀨 ふじがち

悠玄 ゆうげん

命の重み

去年の四月末、家族で遠出した帰り道、運転していたお父さんが突然、車を道の横に寄せて停止しました。そ

して真剣な声で、

「対向車が横から出てきた自転車をはねた。一切動かない。誰も電話してない様子だし、電話する。生きているといいけど……」

と、車内から電話をかけ始めました。その時、弟は寝ていて、お母さんは見えてなくて、僕も見えなくて。お父さんが降りて近づき、様子を説明していました。はねた運転手さんも車から降りていて、でも顔が真っ白で、何もしゃべっていませんでした。その車には赤ちゃんも女の人人も乗っていました。まったく動かない道路に倒れた男の人は、周りの人から、

「お兄さん、頑張れ！もうすぐ救急車くるよ！頑張れ！あとちょっと！」

と、口々に励まされていました。日帰り旅行で楽しい気分だったのに、僕は今までにないくらい、ドキドキして、頭と心の中が一気にぐちゃぐちゃになりました。不安と心配で怖くなりました。警察官と救急隊員の人たちが来て、僕たちもようやく家に向かって出発しました。

それまで、親に「危ないから飛び出さないでね」や「道路は気をつけて」と言われても、その言葉を軽く考えて

いました。あの日以来、目に焼き付いて慎重になりました。事故が起きると、被害者、加害者、目撃者、みんなが大変になることがわかったからです。命は大事とわかっていても、どこか実感できていなかった僕は、初めて命の重さを心から知りました。あの日、気になって、ニュースを探しました。僕たちが目にした事故は、「頭を強く打ち、意識不明の重体」と流れていました。その後もずっと気になり、何度もネットを探しましたが、意識不明の重体から元気になったかどうか、今もわかりません。

一瞬の出来事で人生が大きく変わります。加害者も被害者も、いつ誰がなるかわかりません。僕は弟に、道路での安全をたびたび言うようになりました。運転する親にも、今までは安全運転で別の車に抜かされた時「遅い」と文句言っていたのが、今は「もつとゆっくり」と反対のことを言うようになりました。道を横断する時は、信号機があってもなくても、手をあげるようになりました。それは、僕の命を知らせる大切な合図だからです。そうすることは、待ってつけている家族の安心と幸せにつながることもあるからです。加害者をつくらないことに

もなると思います。事故を見た後、車内でいっぱい話し合いました。誰の命もひとつだけで、尊くて、守らないといけないことを再確認しました。自分の命は自分で守る、それは自分のためでもあり、僕を宝ものに想ってくれている人たちのためでもあります。世の中から交通事故が無くなるように、僕は今日も願っています。

福井県坂井市立東十郷小学校

六年 小藤 柁磨

命を守るヘルメット

「めんどくさいでかぶらーん。」
とか、

「カッコ悪いでかぶらーん。」
とか、そのような声がぼくのまわりでもよく聞くことがあります。

去年の四月から、自転車に乗る時はヘルメットをかぶることが努力義務になりました。ぼくの小学校では、学校ル―

ルで自転車に乗る時は必ずヘルメットをかぶるルールに決まっています。だから、ぼくも本当は少し恥ずかしい気持ちもあるけれど、必ずヘルメットをかぶって自転車に乗るようにしています。

ぼくのお母さんの弟は、小学校三年生の時に自転車に乗っていて、大きな道路に飛び出して、交通事故にあいました。意識不明の重体になって、何度も大きな手術をしたそうです。なんとか命は助かりましたが、おじさんは今は車いす生活だし、脳にも障害がのこっています。もしも、おじさんが子供の時にヘルメットをかぶって自転車に乗っていたら、事故にあってしまっただとしても、ここまで大変なことにはならなかったかもしれません。頭は体の中でも一番大切なところなので、そこを守っていたらちがったのかもしれないですね。

おじさんが子供の時にヘルメットをかぶることが義務だったら、みんなきちんとかぶっていたと思うので、とても残念に思います。

みんな、めんどくさいとか、カッコ悪いとか、恥ずかしいとか、そんなくだらない理由でヘルメットをかぶらないで、大変なことになって後かいても、おそいということ

を分かかってほしいです。お母さんはその気持ちがだれよりもよく分かっているから、ぼくにヘルメットの大切さと必ずかぶるようにしつこく言ってきます。なので、ぼくも、自分のために、家族のために、みんなのために、必ずヘルメットをかぶります。

今はまだ、法律では努力義務だから、絶対かぶらなければならぬわけではないから、ぼくのまわりでもかぶっていない人もいるけれど、早く絶対かぶらなければいけない法律になればいいなあと思います。そうすれば、恥ずかしいとか関係なく、みんなきちんとかヘルメットをかぶると思うし、もしも交通事故にあってしまっても、かるくすむこともあるかもしれないし、そうすれば悲しい思いをする人もへるのではないかなと思います。

自転車の人がヘルメットをかぶるだけで、交通安全になるとは思わないけれど、車を運転するお父さんやお母さん、おじいちゃんおばあちゃんたちは本当に気を付けて、よそ見などや居ねむりなどしないように運転してほしいし、道路をわたる人は、安全確認をしつかりしてわたってほしいし、みんな自分ができることをしつかりして、みんなで交通安全に気を付けて、事故のない安全な世界になって、辛

い思いや悲しい思いをする人がいなくなるといいなあと思
います。



優秀作

文部科学大臣賞

熊本県天草市立本渡南小学校

二年 酒井 宗佑
さかい そうすけ

ぼくのおうだんほどのわたり方

どうしたら、じこにあわないか家ぞくと話しあいました。
そのけっか、車がとまっているかたしかめることでした。

とまっている車をどうやってたしかめていますか。ぼく
は、耳で音を聞きます。ぼくがどうろをわたつていなくても、
車がとまっているか考えています。こうさ点は、耳で聞いて、
たてに車がうごいているか、よこに車がうごいている
かたしかめています。みちをわたらないときは、点字プロッ
クの上をあるいています。点字ブロックにかかとをそろえ
てわたるとまっ直ぐあるくことができます。

学校のじゅぎょうでは、先生に手びきをしてもらつて
どうろをわたるれんしゅうをしています。先生から

「おとうさんか、おかあさんに手びきをたのんでみて
ください。」

といわれたので、ぼくが家にかえって

「手びきおねがいね。」

とおねがいしました。家ぞくとあるいていどうしている
ときに後ろから車がきていることがわかりました。たて
のみちから車がきているなあと思ひながら、

「今、後ろから車がきているね。」

といいました。そうしたらおかあさんが

「前からもきているよ。」

とこたえてくれました。ぼくは、しんごうが見えていま
せん。かくにんしないと車とぶつかってしまいます。だ
から、耳で聞くことがだいじだなと思ひました。

今は白じょうをつかわずに、だれかといっしょに手
つないであるいています。だから、いつか白じょうをもつ
て一人であるいてみたいです。

ぼくは、このように車の音を聞いて、点字ブロックに
足をそろえて、おうだんほうをわたっています。耳が
ぼくのしんごうです。これからも、車の音を聞いておう
だんほうをまっ直ぐわたりたいです。

佳作

警察庁交通局長賞

鹿児島県鹿児島市立春山小学校

一年

有村 ありむら

綜真 そうま

おうだんほう

ぼくは、ことしのしがつにしようがくいちねんせいにな
りました。

がっこうへはあるいてかよっています。とうごうは、と
うごうはんのみんなど、げごうはおなじちいきのおともだ
ちといっしょです。がっこうへのみちはすこしせまくさき
がみえにくいところもおおいです。くるまもたくさんとおつ
ています。みちにひろがらないようにほどうのはくせん
のうちがわがあるき、おしやべりにむちゅうにならないよう
にまわりをよくみるようにきをつけています。

はじめてのことがおおくて、さいしよはすこしきんちよ
うしていました。でもみんなとうげごうをくりかえして

いくとだんだんきんちようもすくなくなっていきました。

がっこうせいかつにもなれてきたあるひのげこうちゅうに、おうだんほどうをわたろうとしたらまがつてきたくるまがすごいいきおいでせまがつてきてきゅうぶれーきでとまりました。おうだんほどうのしんごうはあおだつたのでぼくはとてもびつくりしました。いえにかえつておかあさんにおうだんほどうではなしをすると、とてもおどろいてけががなくてよかつたといつてくれました。そのあとになにがげんいんかおしえてくれました。おうだんほどうがあおのとき、おなじむきのくるまのしんごうもあおなのでまがつてくるくるまがいるそうです。なのでおうだんほどうのしんごうがあおだからくるまがこないとおもっているとおぼないとおしえてもらいました。いままでもおうだんほどうをわたるときにはちゃんとみぎひだりをみてわたっていました。いままでいじようにきをつけたいとおもいました。

とうげこうになれていたのですこしきがゆるんでいたかもしれませぬ。こうつうじこにあわないうようにいろいろなこときをつけたいとおもいました。

大分県大分市立野津原小学校

一年 竹山 明里
たけやま ひかり

てをあげておうだんほどうをわたります

わたしは、ことし1ねんせいになりました。こうつうしどういんになつたおかあさんと、あるいて、しょうがっこうにかよっています。

がっこうまでのみちで、スピードをだしてはやくくるまはこわいです。スマホでよそみをしているくるまのひとがおおいです。

おうだんほどうで、まっているのに、くるまがとまりません。こうつうしどういんの、おとうさんとおかあさんが、たつてとめてくれると、すぐくるまがとまりわたります。

まいにちけいさつのひとが、たつてくれたら、すぐくるまがとまつて、みんながわたれるのになあーとおもいます。

わたしが、あおしんごうで、おうだんほどうをわたつてるとき、くるまどくるまがぶつかりました。とてもこわかつたです。

茨城県下妻市立下妻小学校

一年 谷古宇 楓

こうつうしどういんの、おとうさんとおかあさんが、おうだんほどうをわたるときに、いうことばがあります。

「てをあけて、おうだんほどうをわたりましょう。」

です。わたしは、いつもてをあけてわたります。わたしのおにいちゃん、てをあけてどうろをわたっていました。でも、スピードをだして、よそみうてんの、おじさんのくるまに、ひかれてしんでしまいました。

だからわたしは、おにいちゃんにあったことがあります。せん。いえに、しゃんがいつばい、かざつてあります。あいたかったのに、おにいちゃんにはあえません。かわいそうです。しんだらもどらない、かなしいです。

おそらで、おじいちゃんとおばあちゃんと、うさぎさんとかえるさんと、おつきさまのなかで、いつしよにもちつきをして、たのしくたべているとおもいます。

100ねんご、あいにいきます。それまでこうつうあんぜんをして、まいにちてをあけて、おうだんほどうをわたります。

くるまのひとは、とまつてください。スピードうてん、よそみうてんは、しないでください。おねがいます。

おこさず、あわず、じこぜ口に!!

てをつなごう

「てをつないでからいこうね。」

ちいさいころから、そとにでるときはおかあさんにいわれていました。

でも、ぼくがまだほいくえんせいのに、やくそくをやぶつて、ほいくえんのちゅうしゃじょうでかつてくるまのドアをあけて、ほいくえんのもんまではしつていこうとしたことがあります。

「あぶないよ。」

と、おかあさんにおこられました。そのときは、どうろじやないのになんでおこるんだろうとおもいました。

しょうがくせいになつて、おかあさんといっしよにどうとのほいくえんのおむかえにいったとき、おとうとがはしつてもんからでようとしたとき、ぼくがおいついて、おとうとてをつなぎました。

そのとき、ほいくえんせいのおかあさんにいわ

兵庫県加西市立宇仁仁小学校

二年 鷹取 遵たかとり まもる

ぜつたいにわたれないおうだん歩道

れたことをおもいだしました。ちゅうしゃじょうは、くるまをとめるのにバックするときがあるからとてもあぶないこと。ちいさいこは、くるまのしかくというものになつてしまつてみえないことがあること。くるまはきゅうにとまれないこと。

それからぼくはそとにでるときは、

「いにいとてをつないで、ゆっくりいこうね。」

と、おとうととやくそくをします。

ぼくは、おとうさんとおかあさんがぼくのてをぎゅつ

としてまもつてくれたみたいに、おとうとのてをぎゅつ

としてまもつてあげたいです。

そして、こうつうあんぜんのこともおしえてあげたい

です。

「ほら。やっぱり、車なんかこなかった。」

ぼくは、そう思った。それなのに、近道できてうれしい気もちと、やくそくをやぶつてくるしい気もちとで、とてもふくざつだった。ぼくの家から小学校に行くときに、そのおうだん歩道はある。そこをとれば、小学校まで歩いて三分、自てん車にのれば一分で行ける。一ばんの近道だ。だけど、パパはぜつたいにわたらせてくれない。

パパがすすめてくる道は、かんたんに言うとうつろだ。いったん小学校からはなれて、歩道きょうをわたるから、歩いて五分い上かかるし、自てん車では行けない。小学校につくころには、つかれてあそぶパワーがなくなっている。ぼくはなんどもはろんした。おねがいしたり、おこつたり、近道のよいところをつたえた。だけどいつもパパは、

「かならず歩道きょうをつかいなさい。」
と、言った。

なぜそのおうだん歩道をわたらせてくれないかという
と、U字カーブのてっぺんにあるからだ。見とおしはか
なりわるい。だけど、あまり車も人もとおらないので、
たまに来る車はスピードを出している。だからぜったい
にわたらせてくれない。

でも、ぼくは一回だけそのおうだん歩道を内しよでわ
たった。その日ぼくは、お友だちと小学校のうんどう
じょうでまちあわせをしていた。行くと中、歩道きょう
の上から道ろを見て、「ほら、やっぱり車なんかこなかつ
た。近道したらとくに小学校についているのに。」と、
ちよつとイライラした。夕方までクタクタになるほどあ
そんだかえり道、ぼくは、はじめてそのおうだん歩道を
わたった。ちゃんと右左を見て車が来ていないのかをかく
にんしたし、いそいでわたった。近道できたはずなのに、
やくそくをやぶってふくぎつな気もちで歩く道は、いつ
もよりとっても長くかんじた。家にかえると、げんかん
の前で見えていたパパはカンカンにおこっていた。

「夕ぐれは、歩行しゃがいつもより見にくい。たまた

ま今日は車が来なかったけど、車が来たらあぶないから、
つきからぜつたいに歩道きょうをわたりなさい。」

と、言ったパパの顔は少しかなしそうにも見えた。

そのとき、「もしも」を考えた行どうをしなさいといけ
ないと思った。もしもスピードのはやい車が来たら、も
しもぼくに気づかず止まらなかつたら、もしもぼくがと
中でこけてしまつたら、きつとぼくはじこにあうと思う。
そうなれば、家ぞくみんなにかなしい思いをさせてしま
う。よりあんぜんな道があるなら、そつちをえらばない
といけないと思つた。

あの日からぼくは、そのおうだん歩道をわたりたいと
は思わないし、ぜつたいにわたらない。だれかに見られ
ていなくても、車がこななくても。

福井県福井市松本小学校

二年 瀧口 理紗子

「とび出しちゅうい」 気をつけて

わたしのおじいちゃんの家の前に、とび出しちゅういの男の子のかんばんがあります。小さいころは、元気な男の子のかんばんがなんであるのか、わかりませんでした。でもよく見ると、男の子は、はしっていることに気がつきました。きんじよのほいく園の入り口や、近くの家のガレージのかどにも、よくにたかんばんがおいでありました。

このかんばんは、たてものや、まがりかどから、子どもがとび出してくることを、じどう車やじてん車の人に気づいてもらうためのものだと、おじいちゃんに教えてもらいました。わたしやおとうとがあるけるようになって、そこに出ることが多くなったので、ホームセンターで買って来たそうです。おとうとや妹は、お出かけがうれしいと、はしって家をとび出してしまふので、いつもちゅういされています。わたしはじぶんで気をつけてい

るけれど、もっと小さい子は、すぐにわすれてとび出してしまふので、そこに出るときはとび出さないように、声をかけたり、手をつないだりして、気をつけています。

わたしのおばあちゃんは小学三年のころ、じてん車にのったおじいさんに、足の先をひかれたことがあります。おじいさんは、子どもをじてん車の後ろにのせていてふらついてしまい、おばあちゃんの足の先にのり上げてしまったのです。あつ！いたい！と思ったときには、じてん車のおじいさんは、とおくに行つてしまいました。足の先におもたいじてん車がのり上げたので、しばらくいたかつたそうです。この話を聞いて、いくら気をつけてあるいても、あぶないことはむこうからやってくるんだと思いました。じどう車やじてん車の人も、みちをあるく人も、じこがおきないように、よく気をつけないといけないなと思いました。

とび出しちゅういのかんばんのほかにも、町の中にはいろんなどうろひょうしきやかんばんがあります。「とまれ」や「おうだんはどう」「スピードおとせ」「ふみきりあり」など、どれもじこがおきないようにびかけています。わたしはおじいちゃんとおばあちゃんの話を開

いて、じこにあつてからではおそいんだなと思いました。
わたしがつづけていることは、おうだんほどうやみち
をわたるときに、右見て左見て、また右を見てわたるこ
とです。おうだんほどうでも車がとまってくれないとき
があります。そんなときはあわててとび出さず、まわり
をよく見てわたります。きゅうにとび出すと、車の人も
びっくりしてしまいます。じこにあわないうにするに
は、あるく人もうんでんする人も、どちらも気をつけな
いとだめだなと思います。「とび出しちゅうい」に気を
つけて、これからもみちをあるこうと思います。

徳島県藍住町立藍住北小学校

三年 倉田くらた はる

自てん車で出かけた

一学きに交通安全教室がありました。わたしの通う小
学校では、三年生で交通安全教室をうけた後からは、子
どもだけで出かけてもいい決まりです。わたしは友だち

と夏休みに学校の近くでまち合わせをして、友だちの家
に遊びに行く計画を立てました。家に帰ってそのことを
お母さんに伝えると、いつしよに自てん車で走ってみて、
どんなきけんがあるか考えてみるようになりました。

わたしはふだん出かける時は車にのっついて、自てん
車で出かけることはほとんどありません。自てん車で出
かける時は、お母さんかお父さんが前を走って「右にま
がるよ」、「だんさに気をつけてね」、と声をかけてく
れます。だから、子どもだけで自てん車で出かけるには、
ちゃんと道をおぼえて、あぶないことには自分で気がつ
けるようにならなければいけません。

わたしが先頭になって、いつもよりゆっくと、まわ
りに目をくぼりながら自てん車で走ってみると、ヘル
メットをかぶること、信号をまもることなどのき本てき
な交通ルールのほかに、気をつけなければいけないこ
とがあることがわかりました。

一つは、後ろのかくにんは止まって足をつけてからす
ることです。自てん車をこぎながら後ろを見ると、バラ
ンスをくずしてこけそうになるし、ふらついて車道に大
きくはみ出すことがあります、とてもあぶないです。はみ出

してきた自てん車を、車があわててよけるのを何どか見ました。

もう一つは、道路ぞいにあるちゅう車場にとまっている車に気をつけることです。信号がないので、きゅうに車が車道に向かつて動き出すことがあります。特に、後ろ向きにとまっている車の運てんせきからは、見えるはらいがとでもせまくて、自てん車が来ていることに気づかず、車道に向かつてさがってくる場合があります。

自てん車で出かける時は、自分ののり方だけでなく、車の動きにもちゅういすることがひとつよくだとわかりました。少しでもあぶないと感じた時は、すぐに自てん車をとめて安全をかくにんして、楽しく出かけられるようにしたいと思います。

茨城県下妻市立大宝小学校

三年 柴しば 颯はやと翔

「死角」があると知った日

ぼくは、小学三年生です。

一人で自転車にのって道路を走ることが出来るようになります。ぼくは母に

「一人で自転車にのって遊びたい。」

と何どもたのみました。でも道路を走る練習をしてからにしよう、と、ぜんぜんのが出来ません。

夏休みになり、ぼくは運転席、母は助手席にすわりサイドミラーを見ているように言われました。

びっくりしました。

後ろから歩いてきた父がミラーからきえたのです。次に小学一年生の妹に、車の前と後ろに立つてもらいました。前後とも小さくてかくれてしまい、すがたがぜんぜん見えませんでした。それが「死角」と言うことを教えてもらいました。そして、車のまきこみについても教わりました。「死角」に入ってしまうとどうなる？と聞か

れて、ひかれてしまおうと思いました。「死角」に人がいるかをかくにんするには、運転手が目で見てかくにんするしかない。でも、かくにんしてくれる運転手ばかりではない。その「死角」に颯翔がいたらじこにあつてしまふ。死んでしまふかもしれない。一人で自転車にのつて道路を走るということは、自分で自分の身を守り車の動きをかくにんして、運転している人の顔を見る。ぼくに気づいていない時は止まって待つ。これが守れないと自転車をきよかすることは出来ないと言われました。

運転をしていると歩行者、自転車はあたり前のように車のわきをすりぬけ、青しんごうでつっ走る人が多いと母から聞きました。かくにんをしてなかつたら、じこになつていたなと思つたけいけんが何度もあるそうです。右左折をする車、ちよくしんする自転車、いつしゅんの「死角」に入つていたらどうなるか。車を運転する人は、ぜつたいに目でかくにんしてください。歩行者、自転車は車の動きを目でかくにんしてください。

「死角」を知つてぼくはこわくなりました。これから自転車で道路を走る練習をして、きけんなことなどをべんきようしていこうと思います。

大阪府高槻市立阿武山小学校

四年 岩丸いわまる 琴葉ことば

あなたは被っていますか？

安全確保を意識して生活している人は一体どれくらいいるのでしょうか。毎日街中を見ていて、人は身を持つて体験経験をしないと実感出来ないんだろうな、と私は思うのです。

二〇二三年四月から自転車のヘルメット着用が努力義務化になりました。スポーツバイクに乗っている人はヘルメットを被っているのに、シティサイクルに乗っている人は被らない人が多い。なぜ？自転車は軽車両扱いなので原則車道（例外はある）を走る。とても危ないと思うのです。ヘルメットを被ると暑いから？髪型が崩れるから？私もその一人でした。私は単に『めんどくさい』と思つていました。母によく、

「自転車時はヘルメット！チャリヘル！」（チャリ（自転車）ヘル（ヘルメットとヘルプ）を混ぜた造語）と言われ続ける毎日でした。

そんなある日、母と自転車に乗って出掛けていた時の事です。私は直進から左に曲がろうとした時、ブレーキのタイミングが合わず上手く曲がり切れずに目の前の壁にドーンとぶつかってしまったのです。私は転倒しました。嘔然としました。そして心臓がバクバク冷や汗が出て来てとても怖くなりました。手と足を打撲、皮がめくられて出血していました。母が自転車を降り、すぐかけて来ました。

「こっちゃん！大丈夫!?ちゃんと見てあげてなくてごめんね！頭は打つてない!」

私はハッとしました。ヘルメットを被っていたので当然無キズでした。

「ヘルメット被っていたから大丈夫だよ」

私はその時思いました。『ヘルメット被っていなかったらどうなっていたのだろう・・・』『ヘルメットに命を助けられた』と言つても過言ではないと思いました。

自転車事故で亡くなった人の約七割が、頭部に致命傷を負っているそうです。

ヘルメットを着用しないと死亡率が約三倍！それでもヘルメットを被らない理由はあるのでしょうか？もし事

故で大怪我をしたら、本人だけではなく家族や友人をも悲しませる事になる。それは絶対にあつてはいけない事なのです。

私は今ではヘルメットは相棒だと思っています。自転車時だけではなく、通学の時にも被ろうかな?と思っています。反射シールも貼つて、カッコ良さ倍増です!

私はこの経験をこの作文に書く事で、一人でも多くの人の目に止まれば良いと考えました。

毎日近所で自転車に乗っている人を見かけますが、ヘルメットを被っている人はほぼ見かけません。私は複雑な気持ちになります。声を大きくして伝えたいです。

『命より大切なものはありますか?後悔する前に、ヘルメット!』と。

私は今日も『チャリヘル』で自転車を楽しく、そして安全に乗ります!

街の工夫とぼくができること

ぼくは今年、色覚検査を受けました。検査結果は赤色の見え方に少し異常があると言われました。「でも信号や標識はちゃんとわかっているし、大人になったら車の運転免許も取れます。生活には大きな問題はありませんので大丈夫ですよ。」と病院の先生に言われました。

たしかに、小さいころから信号のことや横断歩道のわたり方など交通ルールはお母さんが教えてくれたからわからないことも赤が理解できないこともなかったです。

ぼく自身の症状が軽いものと言うのもあるかもしれないけれど、街の中にもいろいろな工夫がされているんだと調べて知りました。

標識などは色を間違わないように、にている色を使わないようにしていたり、色がわからない人のために形やマークを利用して表現してありました。階段などの色が同じで段差のわかりにくい物にはふちの部分に明るい色

がぬられています。

他にも工夫があり、目が見えない人のために信号機から音で知らせるようになっていたり、点字ブロックを使用していたり、車いすや歩くのがゆっくりな人のためには青信号えん長ボタンがあったりします。

あたり前のことのように見たり聞いたりしていた物だけど、全ての人が安全にくらせる街づくりがされているんだとあらためて知りました。

でもどんなに街に工夫がされていても使う人がルールを守らなければ全ての人が安全とは言えないこともわかりました。歩きながらのスマホの使用や、イヤホンをつけて自転車に乗ること、点字ブロックをふさぐような自転車の止め方などは、目や耳が不自由な人にはとてもめいわくになるし、大きな事故にもつながります。

ぼくも自転車に乗るので、どんな人でも安全にくらせるように、そしてぼく自身がぼくを守るためにも、学校の交通安全教室で習った自転車の乗り方やヘルメットの着用、交通ルールを守り、マナーも守っていききたいと思います。

茨城県八千代町立下結城小学校

四年 古谷 優月

わたしのお姉ちゃんはん長さん

わたしのお姉ちゃんは、今年から登校はんのはん長さんになりました。先頭に立つて歩くすがたを見て、かっこいいないつも思います。そんなお姉ちゃんに、はん長として気をつけていることを聞きました。そうしたら、「そんな大したことはしてないよ。」

と答えが返ってきました。でもわたしは知っています。歩いている時に、はんがはなれすぎないように、いつも後ろを気にして下級生にスピードを合わせてくれること。車道がわにはみ出した時には、すぐに注意してくれるたりします。家ではよくケンカもするけれど、はん長のお姉ちゃんはとてもかっこよくて大すぎです。

お姉ちゃんと、どうすれば交通事故にあわないですかを話し合いました。その時にお父さんが、「小学生はどういった事故にあっているのか調べてみよう。」
と言い、茨城県けいさつ本部のホームページを見せてく

れました。いばらきの交通事故令和五年ばんを見てみると、十年前からくらべて、事故の件数はだんだんへってきていますが、令和五年は、百七十四人の小学生が事故にあっていることが分かりました。その中で、自転車での事故は四十四人、歩行者の事故は二十五人でした。自転車事故の原いんは、じょ行い反、安全不かくにんが多く、歩行者の事故の原いんは飛び出しが多いということでした。そして、歩行者の事故は、登下校の時の、道路を横だん中に起こることが多いと分かりました。

茨城県の小学生の事故について調べてみて、自分たちは何に気をつければいいか、お姉ちゃんと考えてみました。登下校中の事故が多いので、しっかり前を向いて、一列で歩くようにしたいです。そして、横だん中もあぶないので、信号が青になってもすぐにわたるのではなく、右左右を見て、車に乗っている人に見えるように手をあげて横だん歩道をわたるようにしたいです。それと、自転車に乗る時は、ライトやベルをたしかめて、ヘルメットをきちんとかぶることをわすれないようにします。自転車事故は、出会い頭の事故が多いと書いてあったので、スピードを出しすぎないで、曲がり角ではきちんとはま

るようにすれば、事故にあわないですむのではないかと
思いました。

お姉ちゃんは六年生なので、登校はんでいっしょに学
校に行くのも、もう少ししかありません。お姉ちゃんが
いなくても、教えてもらったことをしっかり守って、交
通安全に気をつけたいと思います。そして、もしわたし
がはん長さんになることがあったら、お姉ちゃんと同じ
ように、しっかりしたはん長さんとして、下級生の安全
を守りたいと思います。

福島県西郷村立熊倉小学校

五年 阿部 楓

事故で失うもの

私にとって交通事故は、あまり身近なものではありません
でした。ふだんから、道路を歩く時にはすぐく気を
つけているので、あぶない思いをした事も無かったし、
交通事故を見た事もありませんでした。

でも、私が四年生の時、おじいちゃんが事故にあいま
した。自転車に乗っていて車とぶつかり、車のボンネッ
トから地面に落ちて、救急車で運ばれました。事故があっ
た場所は、家の近くで私もよく通る道でした。事故があっ
た時、私は家において救急車のサイレンが聞こえていまし
たが、まさかおじいちゃんが事故にあっているとは思わ
なかったのです。おばあちゃんから聞いた時とてもびつ
くりしました。おじいちゃんは、自分で歩いていて大丈夫
と聞いた時、とてもほっとしました。

私は、ふだんから通っている道で事故が起こった事に
おどろいたし、自分が気をつけていても、ある日とつぜ
ん事故にあう事もあるんだなと思いました。

おじいちゃんは、見た目には大きかけがありません
でしたが、体の色々な所にいたみや不調が出てしまい、
何ヶ月も仕事に行く事ができず、しゅみの山登りやサイ
クリング、スイミングにも行けなくなっていました。
たくさんの検査をしたり、リハビリをしたりして、少し
ずつ良くなって、できる事もふえてきたけれど、事故前
のように今は今もまだもどれていません。

私は、交通事故で失うものは命だけではないと知りま

兵庫県神戸市立御影小学校

五年 川内かわうち 咲弥せや

歩行者優先！

した。それまでふつうにすごしていた日常も、ふつうではなくなってしまう。一度、事故にあうと体だけではなく、心にも大きなきずができてしまうと思います。事故にあつた人の家族もとても悲しい思いをします。事故にあつた人だけでなく、事故を起こしてしまった人、その家族も同じように悲しい気持ちになると思います。悲しい思いをする人が少しでもへるといいなと思います。

交通事故を起こさないようにするには、自分だけが気をつけていればいいというわけではありません。歩いてる人、自転車に乗っている人、車を運転している人、みんながルールを守って相手の気持ちを考えなければいけないと思います。

これからは、自分は事故にあわないだろうという考えはやめて、毎日通る道でも、どんな危険があるか、どんな事に注意すればいいのかを考えながら生活したいと思っています。

「歩行者優先！」これは信号機のない横断歩道を渡る時にお母さんがよく言っている言葉だ。「歩行者優先！」いつの間にか私のよく言う言葉になっていた。

夏休みが始まってすぐのこと。近所の商業施設からの帰り道、「歩行者優先！」いつものようにこの言葉を信じて、信号機のない横断歩道を渡ろうとした時、私の目の前を車が平然と通過した。この出来事がこの夏の私の心に火をつけた。これが今から話す私の自由研究のきっかけだ。

この自由研究は、多くの人に交通ルールやマナーを知ってもらい、安全なまちづくりをめざすことが目的だ。

まず、私がお母さんと私の住むまちに信号機のない横断歩道がいくつあるのかを調べた。普段よく通る所、初めて通る所、全部で四十五カ所見つけることができた。そして、一つずつ写真を撮ってオリジナル交通マップを作った。

次に、実際に信号機のない横断歩道で歩行者を優先する

車の台数を調査した。結果から交番の近くの横断歩道では歩行者を優先する車が多いことが分かった。このことから、ドライバーは警察の目を気にしていると予想できた。

その次にしたのは、兵庫県警察が推進している横断歩道合図（アイズ）運動プラスを参考に、私も手を挙げてドライバーに合図を出して調査してみた。結果は何もせずに横断した時より効果的だった。

私はこの結果を持って警察署に行った。

ドキドキしながら警察官に話しかけてみた。すると、警察官は私に優しく色々なことを教えてくれた。警察は交通ルールを市民に守ってもらうために様々な取り組みをしているそう。一つ目は交通の取り締まり、二つ目は交通安全教育、三つ目は広報啓発活動。交通の取り締まりとして教えてもらって印象的だったのが、違反したドライバーに切符を切り、ペナルティとして罰金を科すということだ。

「なるほど。だからドライバーは警察の目を気にしていたのか。」

今度は、警察の取り締まりに同行させてもらった。警察官が立っていると、「あら、不思議。」ほとんどの車

が歩行者を優先するし、歩行者がいなくても速度を落とす。これにはびつくりした。予想通りドライバーは切符を切られたくないから警察官がいると交通ルールを守るのだ。今回の調査で歩行者に対して気づいたこともある。止まってくれた車を気にして小走りする人や感謝の気持ちでお辞儀をする人がいたことが良かった点だ。悪かったのは横断歩道を渡らない人やスマホを見ながら歩く人がいたことだ。

警察官がいなくても交通ルールを守ってほしい。

自分の身を守るために交通マナーを考えてほしい。

「ドライバーも歩行者もそれぞれが交通ルールやマナーを守り、お互いにゆずり合って事故のない安全なまちにしましょう！」私はこの自由研究でこのメッセージを伝えたい。

「歩行者優先！」

今日も私はこう言って横断歩道を渡り出す。

山口県周南市立福川小学校

五年

宮崎 みやざき

祐奈 ゆうな

右よし、左よし、心の準備よし

「今日も安全に登校するよ。右よし、左よし、心の準備よし。」

家を出発する時、この言葉をしっかりとむねにきざむ。気持ちにゆとりを持つ心構えは大切なので、心の準備をして、登校するようにしている。通学路は交通量が多い道路やふみ切りがある。朝は通勤ラッシュで、横断歩道をわたるのがとてもこわいけれど、保護者や見守りたいの方々の立しようのおかげで、私達は安全に登校することができると。朝早くから立しようをしてくださることに、私達は、心から感謝している。無事に登校して、授業を終えて帰宅するとほっとする。

私の父は、自動車学校に勤務していて、安全について家族でよく話し合う。青信号は、「進む」ではなく、「周りの安全を確認して進むことができる」など、安全の大切さについて話し合っている。運転手側から見ると、子

供は見えにくい時があるので、手をまっすぐ挙げるなど、自分の存在をしっかりと示すことも重要だ。視野に関しては、子供のほうが大人よりもせまいので、危険に気がつきにくい。危険がひそんでいないか、しっかりと確認することが大切だと思った。

私は自転車に乗って、母とよく買い物に出かける。四年生の時、「自転車運転免許証」をいただき、とてもうれしかったと同時に、交通安全に対する意識もさらに深まり、身が引きしまる思いがした。自転車に乗る時はヘルメットを必ず着用し、ゆっくり運転するように心がけている。せまい道路から自動車が近づいてきた時、ヒヤリとしたことがあるので、目視をして安全を確認してから運転したい。

最近、高れい者の運転に関することをよく耳にする。父が勤務している自動車学校で実しされている「高れい者講習」や「認知機能検査」には、毎回たくさんの受講者が来られるそうだ。年を重ねると運動機能や認知機能が低下しやすいので、より注意が必要だと、父が言った。私の祖父も自動車学校で、講習や検査を受講し、現在も自動車を運転している。祖父に運転する時に気を付けて

いることを聞いてみると、

「交差点を右左折する時やスーパーのちゅう車場などでは、歩行者に気を付けて運転をしているよ。」

と話してくれた。私は祖父に

「最近ハイブリッドカーが多く、エンジン音が静かで自動車に気付きにくい時もあるから、歩行も気を付けてね。」

と言った。

年れいによって、能力にちがいはあるけれど、交通安全に対する意識はどの世代も共通だと思う。命は、たった一つ。これからも交通ルールを守り、気持ちにゆとりを持って、自転車の運転や歩行など、安全に行動できるような心がけたい。

徳島県藍住町立藍住北小学校

六年 曾我部 大和

自分たちの事故から学んだこと

テレビでは毎日のように事故のニュースがある。事故で亡くなった人の事を考えると、とても悲しいが、わざとではなく事故を起こしてしまった人の事を考えても心がいたむ。

自分が三年生のころ、自転車で行く友達を追いかけていて、曲がり角で一時停止している車にぶつかって。相手の車には、きずがついていて、自分の体と自転車は無事だった。そのあと警察官が来て、車のドライブレコーダーを見ると、自分が左右確認せず角を曲がるのが映っていた。「やってしまった。」と思った。

相手の車の運転手の人は、自分を責めず許してくれた。お父さんとお母さんにはとても怒られた。本当だったら自分が加害者で、車の修理費を出さなくてはいけないことや、相手にケガをさせていたら、高額ないしゃ料を払ったりとんでもない事になっていたと言われた。

愛知県豊橋市立福岡小学校

六年 中嶋 なかじま 結衣 ゆい

いっしゅんの出来事

また、次の年のある日、学校が終わって家で姉の帰りを待っていると、姉の友達が家に来て「(姉が)救急車で運ばれた。」と教えに来た。その時とてもびびくりしたし、とても心配だった。姉は一時間くらいで帰ってきた。手のひらにいたそうなきずがあった。

話を聞くと、学校帰り走って丁字路に出て、車にぶつかったそうだ。車の運転手は、そのまま立ち去ろうとしていたが、近くにいた男の人が運転手を引き止めてくれ、救急車を呼んでくれたそうだ。大したケガがなくて本当によかったと思ったし、その男の人にとっても感謝した。自分も姉も左右を確認せず、自分は加害者で、姉は被害者になった。交通ルールを守らないと、簡単に加害者にも被害者にもなるし、家族やまわりの人にもたくさん迷惑をかけるということを身をもってわかった。

今回の自分たちの事故が、ニュースになるような大きな事故にならなくて本当によかったと思う。これからも、事故の加害者にも、被害者にもならないように、しっかりと左右確認し、交通ルールを守るようにしたい。また、交通事故を目撃したら、姉を助けてくれた男の人のような行動をしたいと思う。

「ドッカーン」

私は何が起こったのかわからなかった。

知らないおばさんに

「みんな早く出て」

と言われ、言われるがままに外に出た。その時、初めて現実を知ることになった。

私のおばあちゃんの車が道路の横向きに止まり、車体がグチャグチャになっている。そうだ私は車の後部座席に座っていたことを思い出した。おばあちゃんは「ごめんごめん」と言っていたが胸が痛いと思いきや救急車に乗ってしまった。となりで妹も泣き出した。私だって初めてのことでどうしていいのかわからず泣きそう。こわい夢でも見ているのか、現実なのかわからなかった。まるで遊園地の絶きようマシーンに乗った後のような感じだった。おばあちゃんほろっ骨骨折、妹は足指三本の骨折、私は

首のあっぱく骨折といった大ケガをしてしまった。現場で警察官に後部座席でもシートベルトをしなければいけないよと言われて気付いた。私は高速道路以外は後部に乗った時シートベルトをしたことがなかった。とうっかりなくてもいい反ではないからと自信を持っていた。しかし今回の事故でシートベルトをしていればこんな大ケガをすることなかったと思った。今さら後かいしてもあとの祭りとなわかっていたが後かいしかない。今思えば、ぶつかつた時に妹はイスの下へ、私は右から左に飛ばされた。シートベルトの大切さを知った。自分の命は自分で守らなければいけないと強く思った。交通規則を守らなければ死亡することだつてある。このぐらい平気なんて考えていた私ははずかしくなつた。

二度と事故にあいたくないし、ケガもしたくない。どのイスに座ろうとシートベルトは必ずすると心にちかつた。交通ルールは守ろうと声を大にして言つていこうと思つた。

岐阜県各務原市立蘇原第一小学校

六年

西濱にしはま

千紘ちひろ

横断歩道でコミュニケーション

信号機のない横断歩道でなかなか止まつてくれない車に、私は少し腹立たしく待つていた。すると、何台かの車が通り過ぎた後、やっと一台の車が止まり横断歩道を渡ることができた。でも、私のちよつとした心がけで、何か変わるのかもしれない。

私が小さいころ、父や母から、

「道を渡る時は、右を見て、左を見て、手を上げて渡るんだよ。」

とよく言われた。それは、低学年で背の小さな私が車の運転手さんに気づいてもらえるように、手を上げた方がいいのかと私は思つていた。けれど、自分の身長も伸び、学年が上がつてだんだんはずかしくなり、最近では手を上げて道を渡ることが少なくなつてきた。

それに、いつも家族で車で出掛ける時、横断歩道が近づくと、

「歩行者がいるよ。」

と遠くに見える歩行者に気づいた母が父に知らせている。それはなぜかと聞いたら、横断歩道付近に歩行者がいる場合は、必ず車は一時停止をしなければならぬ交通ルールなのだと教えてくれた。だから、歩行者の私が待っていたら、車が気づいて止まってくれるだろうと思っていた。

そこで私は、横断歩道の渡り方について調べてみた。すると、長野県は横断歩道の一時停止率が一位だということが分かった。長野県では、歩行者が横断歩道を渡り終えた後に「ありがとう」の気持ちをこめて、お辞儀をする習慣があることを知った。それで、運転する人も「次も止まろう」という思いやりの気持ちに繋がりが、横断歩道の一時停止率の結果に出ているのではないかと言われている。

また、手を上げて渡ることは、小さな子供が目立っためだけではなく「横断歩道を渡りたいです」と明確な意思表示のために、子供だけでなく大人も手を上げて、ハンドサインを出すことが大事だということを知った。

横断歩道で車が止まってくれなかったのは、私にも原因があったのだ。それは、交通ルールだから車が止まっ

てくれるのは当たり前ではなく、歩行者の私もちゃんと意思表示をする必要があるということだ。そして、歩行者も運転する人も互いに目と目でコミュニケーションをとることで、より安全に渡ることができるのだ。それから、渡り終えた後に感謝の気持ちを伝えることで、次の「どうぞ」の思いやりに繋がっていくのだと思う。

交通安全は、人と人とのコミュニケーションによって、悲しい事故を減らすことができるのではないだろうか。交通ルールやマナーを正しく理解し、コミュニケーションをとろうとする私の心がけて、事故を防ぐことができるのだ。だから、これから横断歩道では、手を上げて、目と目でコミュニケーションをとり「止まってくれてありがとう」と感謝の気持ちを忘れずに伝えたい。